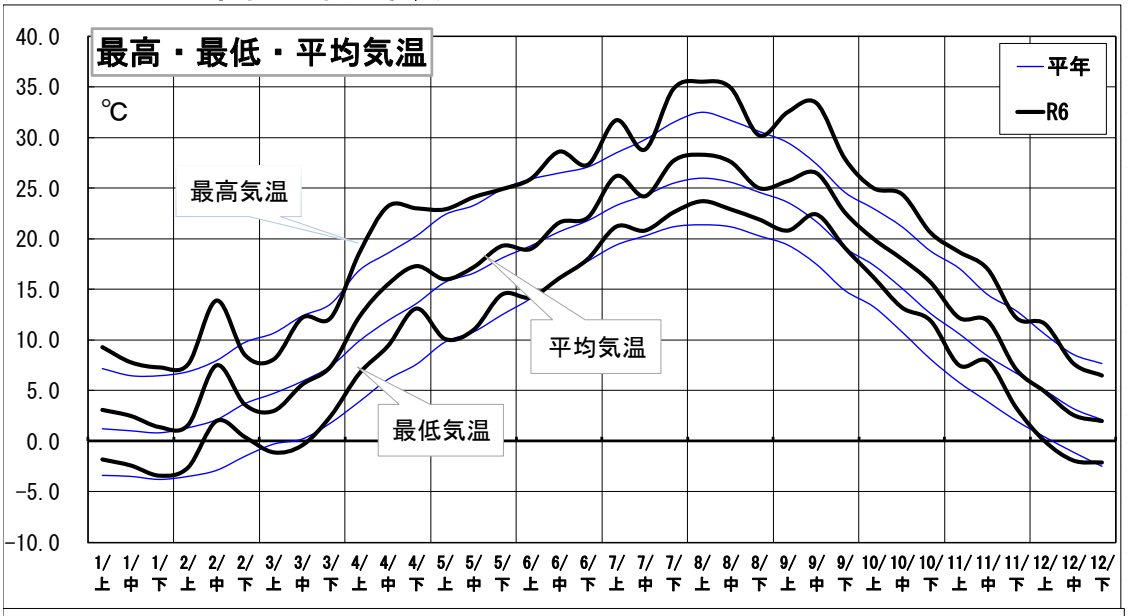
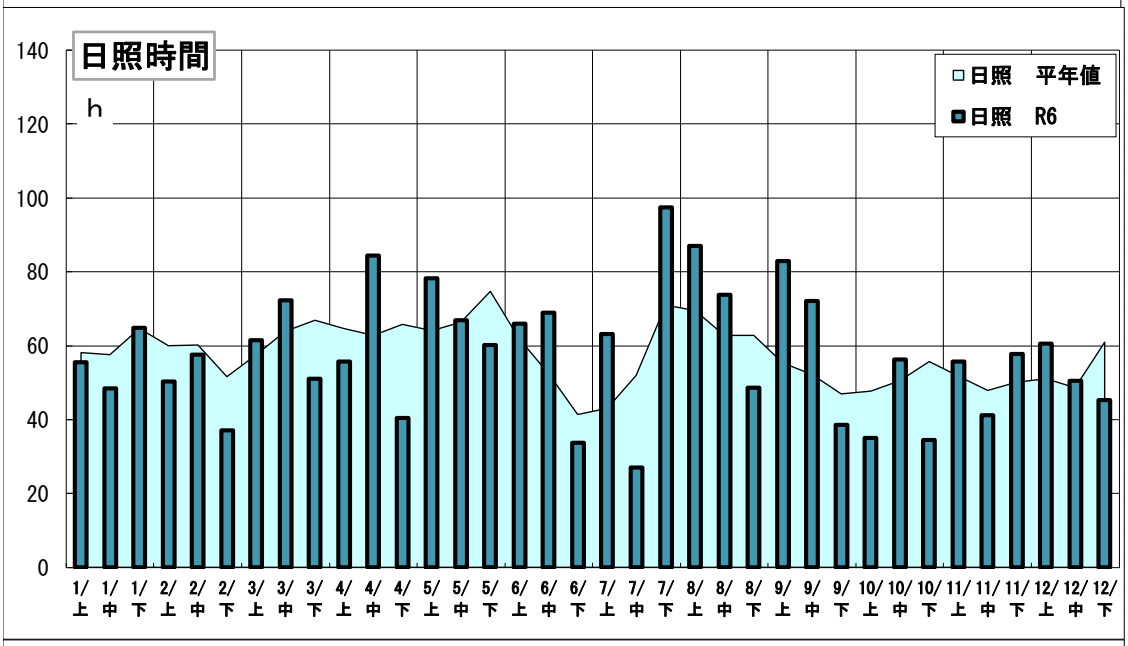
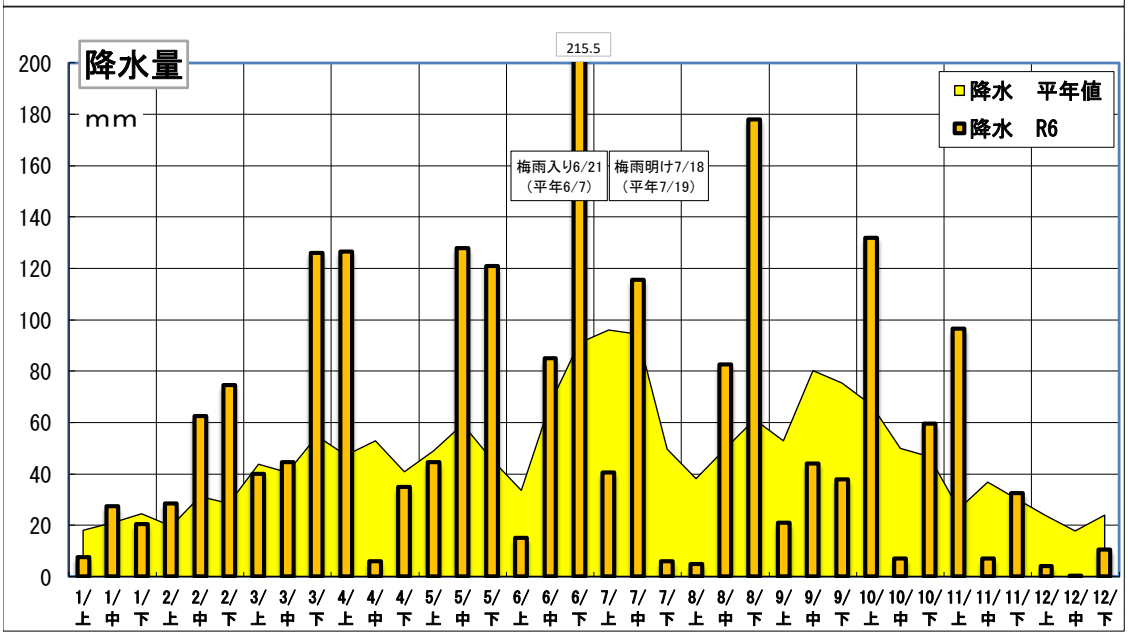
# 参考資料

# 令和６年気象表

観測点：長野県飯田　　南信州農業農村支援センター



# 令和６年度気象災害の発生状況

## ■凍霜害

本年、長野県内では３月から５月までの間に霜注意報が 22 回発表されたが､大きな被害は発生しなかった。

## ■豪雨及び長雨

災害につながる豪雨はなかったが、年間降水量は2,088㎜と多かった。８月下旬から９月上旬の秋雨により、りんごで褐斑病や炭そ病、輪紋病が多発し、果実全般の糖度低下などがみられた。

## ■高温及び干ばつ

３月は低温傾向だったが４月に入ると高温になり、果樹などの生育は前進した。

７月上旬から９月中旬までは最高気温の平均値が概ね30℃を超え、高温の期間が長く続いた。９月下旬以降も高温傾向は続き、11月中旬までは平年よりも気温が1.6～3.3℃高くなった。そのため、りんごの着色不良や日焼け果の発生、市田柿の収穫、加工に大きな影響があった。

今年度は全般的に降水量が多く、干ばつとなる期間は短かった。梅雨明け後の２週間（７月下旬～８月上旬）は干ばつとなり、りんご、なしの早生品種を中心に小玉傾向となった。８月中旬以降の降雨により小玉果は徐々に解消された。

## ■ひょう害・台風

雹害による大きな被害はなかった。

本年の台風発生数は26個と多かったが、長野県への影響が懸念されたのは３個で、台風による被害はなかった。

９月19日には局所的な突風が発生し、飯田で14時10分頃に最大瞬間風速18.3ｍを計測した。この強風でりんご高密植栽培園の倒伏の被害が発生した。

## ■雪害・寒害

２月４日から７日かけて、飯田でのべ18ｃｍの積雪となり、南部地域で雪害が発生した。管内の２町村で６棟のハウスが倒壊し､806万円の被害となったが、幸い農作物の被害は見られなかった。

## ■今後の対策

凍霜害をはじめ、気象災害による農作物への被害が毎年発生している。このため、市町村や出荷団体と連携し、災害に対する予防策などの情報提供を積極的に実施し、災害に強い産地作りに努めたい。

## ■気象・技術対策の技術情報

| 月　日 | 技術情報の内容 |
|---|---|
| ３月５日 | 雪害に伴う農作物等の被害防止対策 |
| ３月５日 | 暖冬の影響に対する今後の農作物の栽培管理 |
| ３月11日 | 雪害に伴う農作物等の被害防止対策 |
| ４月９日 | 低温・凍霜害に対する農作物等の被害防止対策 |
| ４月26日 | 日中の高温による施設農作物等の管理 |
| ５月９日 | 低温・凍霜害に対する農作物等の被害防止対策 |
| ５月27日 | 大雨・強風に備えた農作物の栽培管理及び畜舎・施設類の管理 |
| ６月18日 | 大雨・強風に備えた農作物の栽培管理及び畜舎・施設類の管理 |
| ７月１日 | 梅雨期の大雨・長雨に対する農作物の栽培管理 |
| ７月25日 | 高温時における農作物・家畜類等の栽培・飼養管理技術 |
| ８月13日 | 台風第７号の接近に伴う技術対策 |
| ８月22日 | 台風第 10 号の接近に伴う技術対策 |
| ８月29日 | 台風第 10 号の接近に伴う技術対策 |
| ９月20日 | 突風の被害に対する農作物の技術対策 |
| 12月12日 | 雪害及び寒害に伴う農作物等の被害防止対策 |
| １月31日 | 雪害及び寒害に伴う農作物等の被害防止対策 |
| ２月14日 | 雪害及び寒害に伴う農作物等の被害防止対策 |

（技術経営係：山近　龍浩）

# 問題となった技術事項とその対策（作物）

## ■水稲

１　育苗

播種は平年並みの４月上旬から行われた。育苗前半の生育は順調だったが、後半から一部でムレ苗や苗焼け、苗立枯病等が散見された。育苗期の適正な温度管理と潅水を実践する。

２　幼穂形成期～登熟期

(1) いもち病の発生

７月中旬以降、中山間地を中心に葉いもちが発生した。穂いもちに移行したほ場では減収となった。粒剤による予防と初発時の液剤散布を実施する。

(2) 斑点米カメムシ類の発生

管内全域で早い段階から大型の斑点米カメムシ類が確認され、格落ちの主な原因となった。効果の高い液剤による複数回適期防除を励行する。

３　収量・品質

(1) くず米、胴割れ米の発生

高温のため登熟が進み、刈り遅れを主要因とする胴割れ米が多くなった。ライスセンターの早期稼働、オペレーターの確保により適期収穫を行う。

(2) 斑点米の発生

大型の斑点米カメムシ類の発生により、全域で斑点米が発生し、玄米品質が低下した。農業用ドローンによる集団防除への取組を進める。

## ■大豆

カメムシ類の吸汁害により、落莢を含む大幅な減収となった。青立ちによる汚粒と、紫斑病による格落ちが目立った。病害虫の適期防除を励行する。また、一部ほ場で帰化アサガオ類が発生した。耕種的防除と効果のある除草剤を利用する。

## ■そば

高温による充実不足を要因とする格落ち、製粉時の歩留まり低下がみられた。標高別播種時期の見直しを検討する。

（技術経営係：池浦　毅）

# 問題となった技術事項とその対策（果樹）

## ■全般

梅雨入りは６月 21 日と遅く梅雨期間は 27 日と短かったが、期間中の降水量は平年の 113%と多かった。７月 18 日の梅雨明け以降は高温干ばつとなり、果樹全般で小玉果、日焼け果、着色不良などが発生し減収となった。果樹カメムシ類が大発生となり、ほぼすべての樹種に対して大きな被害が発生した。

## ■主な品目別事項

**１　りんご**：梅雨明け後の高温干ばつにより日焼け果、着色不良果、小玉果、収穫前落果などが発生した。８月中下旬の多雨により、褐斑病、輪紋病、炭そ病が多発した。

**２　なし**：開花期の天候がよく結実は良好だった。梅雨明け後の干ばつで小玉傾向となった。高温干ばつにより「南水」は日焼け果が発生し、中程度以上の重症果の割合が多かった。

**３　ぶどう**：高温の影響で、縮果症、着色不良が発生した。特に「クイーンルージュ®」では着色不良が大きな問題となった。次年度以降は、着果過多の防止や適切な新梢管理、果房周辺の光環境改善などの対策が一層必要となる。

**４　もも**：モモせん孔細菌病は、り病枝のせん除の取り組みの効果により、発生は減少傾向である。引き続きせん除の徹底を周知していく。

**５　市田柿**：10 月の高温と降雨により、収穫前の果実が樹上で発酵する症状が見られた。果実の発酵は剥皮後の前期乾燥中にも多く見られ、特に 10 月中に剥皮した果実に多かった。また、条紋多発による未熟果の収穫と、発酵果抑制のため干場の換気を指導したことなどにより、果実の乾燥が進み「渋み」の残る干し柿が多く発生した。また、11 月中旬まで高温が続いたため、カビの発生も多かった。

（技術経営係：山近　龍浩）

# 問題となった技術事項とその対策（野菜）

## ■主な品目別事項

高温傾向から害虫が多発し、また高温性病害の発生も目立った。特徴的な事項を記述する。

**１　きゅうり**：露地では炭疽病、べと病などが進展し、早期に収穫を打ち切るほ場も多かった。施設では連作による土壌病害への対策が必要で、阿智村でキルパーによる古株処理の現地実演会を開催した。高温により急性萎凋症が目立ち、カボチャ台木の青枯病も問題となった。

**２　ズッキーニ**：軟腐細菌病による株枯死や、ウィルス病によるロスが問題となった。

**３　トマト**：コナジラミ類の発生が多かった。周年栽培では、片づけから次作までハウス内にトマトのない期間を３週間（１世代）以上設けることで、ウィルス保毒世代の根絶を図り、伝染環を断ち切る対策を実践していく。

**４　なす**：オオタバコガによる出荷ロス低減のため、発生消長調査結果を共有した。また褐斑細菌病の発生により１番果の出荷量が減少した。

**５　ピーマン**：アザミウマ類の多発で果実に吸汁によるケロイド症状が見られるほ場があった。

**６　いちご**：夏秋いちごでも微小害虫の発生が多かった。主力品種の「サマーリリカル」は園芸作物生産振興協議会が作成した栽培マニュアルを活用し、ＪＡと連携して巡回指導を実施した。

**７　アスパラガス**：アザミウマ類の発生が目立ち、防除に苦慮した農家も散見された。

**８　ねぎ**：かん水のできないほ場が多く、特に７月から９月の高温による生育不良で全般に細物傾向となった。また白絹病、軟腐病、ネダニ類等の病害虫が問題となった。

## ■今後の課題と対応

野菜では病害虫の診断や対応についての相談が非常に多い。長期的な視野を持ち、耕種的手法も組み合わせた総合防除の提案を心がけていく。

（技術経営係：片桐　直樹）

# 問題となった技術事項とその対策（菌茸）

## ■菌茸全般

近年のきのこ経営は、販売価格が長期低迷している。一方で、培地、包装資材等の値上がりによりコストが高止まりしており、企業努力だけでは改善が見通せないほどの厳しい状況が続いている。

## ■主な品目別事項

**１　ブナシメジ**

昨年度一部経営体においてダニ類による害菌被害が発生したが、培養室内の衛生管理の徹底などの対策を講じた結果、今年度のロスビン率は低い数値を維持している。今後も月次の検討会でその推移を注視していく。

**２　エノキタケ**

エノキタケ黒腐細菌病の発生があり、若干の被害が発生した。

## ■本年度の取組と今後の課題

経営安定には、ロスビン率を低く抑え、生産を安定させるほか、費用の低減が重要である。そのために、以下の対応を行っていく。

１　きのこ栽培における未利用資源の利用

きのこの培地には輸入資材が多く用いられており、持続的なきのこ生産のためには国内、特に長野県内で調達可能な資源の利用が求められている。本年度は、管内で生産された竹パウダーを、ブナシメジの培地資材の代替として試験を行った結果、一定の成果を得た（詳細：44 ページ）。

２　害菌害虫調査

ロスビン率の低下には施設内の状況把握が重要である。そのため、害菌対策として落下菌調査および拭き取り等のモニタリング調査を実施し、調査結果に基づいた対策を講じていく。

また、害虫についても同様に、モニタリング調査を行い、侵入経路の把握および対策の実施を行い、被害を最小限に抑えるよう努める

（地域第三係：浅見　茉由子）

# 問題となった技術事項とその対策（花き）

## ■全般

コロナ過から脱却しつつあり、全国的には生産出荷量は不足し高単価になってきたという声が聞かれるようになったが、それにもまして国際情勢の影響で資材高騰が大きく影を落とし、収支に悪影響を及ぼした。また、昨年同様猛暑により品質低下や出荷期の変動が発生した。

## ■主な品目別事項

### １　カーネーション

高温による品質低下(短茎開花､茎の軟弱化等)の発生が多く収量減につながった。高温時の品質低下への対応として細霧冷房に注目が集まった。

### ２　鉢花（シクラメン）

切り花に比べ単価の回復はまだ遅れており、予約相対の販売割合が以前にもまして多くなった。高温による出荷時期後退が一層進んだ。

### ３　ダリア

良日持ち性のエタニティ系の品種試験は継続中。彩雪の苗供給停止により白系品種の候補選定が急務となり、品種試験圃から有望品種が１系統見つかった。

### ４　ホオズキ

予約相対に対して100%の出荷をすることができたが、市場からの注文量に対してはまだ足りていない。これに対し既存生産者に増反を呼びかけることとなった。

### ５　花木

アブラドウダンの病害とスノーボールの虫害に対しては対策が見つかり部会等へ情報提供を行った。

ユーカリ葉枯病に対し梅雨期の対策が見つかった一方、炭疽病による枝膨れ症が見つかった。

## ■今後の課題と対応

高温等の気象変動に対応した栽培技術の検討を中心として、花きの生産安定対策を進めていく。

（地域第三係：中村　武郎）

# 問題となった技術事項とその対策（畜産）

## ■全般

依然として飼料・資材の高騰が続き、自給飼料の生産基盤を持たない大家畜農家、購入飼料に依存する中小家畜農家にとっては経営を大きく圧迫される厳しい状況が続いている。

## ■畜種別事項

### １　酪農

夏場の高温によるストレスで生乳生産量や分娩数が減少したことに加え、子牛の販売価格が低迷して収入が減少している。家畜保健衛生所と連携して牛群ドック、繁殖検診等を実施し各農家に適した対応策を提案している。

### ２　肉用牛

牛肉は消費の向上が見られず、枝肉卸売価格は前年を下回り肉用牛肥育経営安定交付金が交付される厳しい状況である。また、繁殖経営も子牛価格が下落傾向で肉用子牛保証基準価格を下回る等収入減が続いている。繁殖牛農家向けには代謝プロファイルテスト等に基づく飼料給与診断により、地域内一貫体制のレベルアップを図っている。

### ３　養豚・養鶏

豚肉・鶏肉価格は堅調、鶏卵価格は上昇傾向で推移している。

豚熱、高病原性鳥インフルエンザの感染リスクは依然高く、最大限の警戒が必要となっている。

## ■飼料生産

永年性牧草は高温による出穂期の早まりから刈遅れる草地が見られた。とうもろこしは昨年並みに不作であり、ソルガムは高温により旺盛な生育となり大幅に増収した農家が多かった。

温暖化への対応と自給飼料増産のため飼料用とうもろこしの二期作、極晩生ソルガムの２回刈りによる増収の可能性を検討し、極晩生ソルガムの２回刈りでは実用性が示唆された。

（地域第二係：清水　伸也）

# 農薬等普及展示ほの設置

## ■背景とねらい

地域における農作物の病害虫・雑草等に関わる課題解決と新技術の迅速で効果的な普及を図るため、農薬等普及展示ほを設置し、新たに普及に移された農業技術と今後普及技術として取り上げられる見込みの技術等の実用性の確認を行っている。

また、農薬等普及展示事業は、農業技術普及の一環として位置づけられるものであり、(一社) 長野県植物防疫協会と連携して実施している。

令和６年度は管内で７剤を試験し、効果を確認した。

## ■本年度の取組

１　展示ほの設置

本年は、下表の殺菌剤１剤、殺虫剤３剤、除草剤３剤について、農薬メーカーから委託を受け、現地の農家へ再委託し、展示ほの設置を行った。

また展示ほ設置後は、対象の病害虫・雑草等の発生状況調査を実施した。

２　巡回調査

展示農薬の試験成果と現地適応性について検討するため、６月 12 日と７月 22 日に関係機関で巡回調査を行った。

６月 12 日　関係機関による巡回調査の様子

## ■本年度の成果

試験に供した７剤について、展示ほの設置が出来、次年度繰越課題は無かった。

試験期間中の対象病害虫・雑草等の発生状況調査により、農薬の効果が確認できた。

また、試験委託先農家から実際の散布作業や農薬の効果等にかかる感想も聞き取り、現地での普及性について検討できた。

## ■今後の課題と対応

以前は問題とならなかった病害虫が高温化といった気候変動等により顕在化したり、近県などからの新たな病害虫の侵入などが問題となっている。

次年度以降も、現場のニーズに合わせて、農薬等普及展示ほを設置して効果を確認する。

（技術経営係：片桐　直樹）

表　農薬試験展示ほ設置課題一覧

| | |
|---|---|
| 殺菌剤 | ナシ黒星病に対するベランティーフロアブルの効果 |
| 殺虫剤 | ピーマンのアブラム類に対するベリマークＳＣの効果 |
| | かきのカイガラムシ類に対するモベントフロアブルの効果 |
| | ねぎのネダニに対するグレーシア乳剤の効果 |
| 水田除草剤 | 水田雑草に対するシンゲキ１キロ粒剤の効果 |
| | 水田雑草に対するストレングス１キロ粒剤の効果 |
| | 水田雑草に対するサラブレッドＧＯジャンボの効果 |

# 管内優良表彰受賞者一覧（知事賞以上）

| 表彰の名称 | 賞の名称 | 氏　名 | 表彰内容 |
|---|---|---|---|
| 第63回　農林水産祭 | 天皇杯 | 株式会社　なかひら農場<br>（松川町） | 多角経営部門 |
| 令和６年度　明日の長野県<br>農業を担う若人のつどい | 長野県知事賞 | 株式会社　丘の上ファーム<br>原　昌紀<br>（豊丘村） | プロジェクト発表<br>園芸特産作物部門 |
| 第75回<br>下伊那子山羊共進会 | 長野県知事賞 | 一　英明<br>（飯田市） | 雌子山羊の部 |
| 第50回<br>和牛繁殖技術共励会 | 長野県知事賞 | 小山　清志<br>（喬木村） | |
| 第47回<br>長野県きのこ品評会 | 長野県知事賞 | 有限会社　Ｉ・Factory<br>（下條村） | ぶなしめじの部 |
| 第46回<br>飯田花卉組合品評会 | 長野県知事賞 | 村澤　俊彦<br>（飯田市） | ＳＰカーネーション<br>（オレンジカスタード） |
| 第68回<br>長野県漬物品評会 | 長野県知事賞 | 有限会社　信濃食品<br>（飯田市） | 浅漬物の部<br>（南信州産レモンの大根漬） |
| 令和６年度<br>園芸特産業関係功労者表彰 | | 三村　貞美<br>（飯田市） | 高密植栽培をはじめとする<br>本県りんご生産振興に貢献 |

## 令和6年度　南信州農業農村支援センター　技術経営普及課・阿南支所　業務分担

| 区分 | 職　　名 | 氏　　名 | 内線 | 担当項目<br>担当市町村 | 担　当　業　務 |
|---|---|---|---|---|---|
| 所　　長 | | 小林　健次 | 2470 | | 所総括 |
| 技術経営係 | 副参事兼<br>技術経営普及課長兼<br>技術経営係長 | 樫山　岳彦 | 2471 | | 課・係総括、重点課題（きゅうり）総括、職員研修、<br>農振協、表彰事業、生育情報、菌茸（副） |
| | 担当係長 | 山近　龍浩 | 2492 | 果樹 | 重点課題（日本なし）総括、災害対策（正）、<br>農薬相談員、伊那園振 |
| | 主幹普及指導員 | 池浦　　毅 | 2483 | 作物・担い手 | 農作物種子(副)、PALﾈｯﾄながの（副）、農業士、<br>農村生活ﾏｲｽﾀｰ(副)、農業女子（副）、カイゼン |
| | 主任普及指導員 | 片桐　直樹 | 2493 | 野菜・病害虫 | 災害対策(副)、農作業安全、植物防疫（正）、<br>スマート農業 |
| | 主　　事 | 井澤　美咲 | 2483 | 担い手 | PALﾈｯﾄながの（正）、農村生活ﾏｲｽﾀｰ(正)、<br>農業女子（正）、植物防疫（副） |
| 地域第一係 | 専門幹兼<br>地域第一係長 | 木下　倫信 | 2415 | 松川町・大鹿村 | 係総括、北部農業改良協議会 |
| | 専門幹兼<br>担当係長 | 伊原　竜夫 | 2416 | 喬木村･担い手 | 就農支援、スキルアップセミナー |
| | 技　　師 | 細久保安奈 | 2416 | 豊丘村･担い手 | 帰農塾、情報 |
| | 技　　師 | 小林　篤央 | 2416 | 高森町 | 農作物種子(正)、活動記録 |
| 地域第二係 | 副参事兼<br>課長補佐兼<br>地域第二係長 | 清水　伸也 | 2411 | 飯田市･畜産<br>経営 | 係総括、資金、地域計画、<br>農業経営者総合サポート事業 |
| | 担当係長 | 深谷　俊英 | 2413 | 飯田市・特作<br>環境 | GAP、鳥獣害対策、農薬相談員 |
| | 普及指導員 | 内田　牧歩 | 2413 | 飯田市 | マーケティング、地産地消、かたつむりの会 |
| 地域第三係 | 専門幹兼<br>地域第三係長 | 中村　武郎 | 2411 | 阿智村・花き | 係総括、6次産業化、直売所、普及計画 |
| | 主幹普及指導員 | 木下　雅仁 | 2412 | 阿智村・担い手 | 農業経営士、作物(副) |
| | 普及指導員 | 浅見茉由子 | 2412 | 平谷村・根羽村<br>菌茸(正) | 土壌肥料、実績集 |
| 阿南支所 | 支 所 長 | 牧島　正広 | 0260-<br>22-<br>3199 | 阿南町・下條村 | 支所総括、阿南地区農業改良協議会、<br>茶振協技術普及部会、食育、グリーンツーリズム |
| | 主任普及指導員 | 西嶋　秀雄 | | 売木村・天龍村 | 農薬相談員 |
| | 技　　師 | 岡田　孝章 | | 下條村・泰阜村 | 農村生活マイスター(西南部)、<br>農村女性ネットワーク(南部)、茶振協 |